

# CASBEE® 名古屋

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 総合評価 2016年版、4.0版(建築環境総合性能評価システム) CASBEE 使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)名古屋伏見NNプロジェクト	階数	地上13F、地下1F
建設地	愛知県名古屋市中区錦1丁目20-19	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	1,110 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,650 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年1月 予定	評価の実施日	2026年2月7日
敷地面積	965 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	820 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	9,995 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 2.0**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.6**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.7

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.9

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

**LR のスコア = 3.7**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 名古屋伏見駅の交差点に立地する本物件は、中心市街地である伏見地区の顔となる場所にある。これからのオフィス建築の「鑑(手本)」となることをコンセプトとして、高品質かつ先進的な省エネ・環境配慮のための取組みを行っている。		<b>その他</b>
<b>Q1 室内環境</b> Low-E複層ガラスと吹付硬質ウレタンフォーム+GWの二重断熱による高断熱化、冬期・夏期とも24℃を実現する冷暖フリーの空調設備を導入、換気設備は必要換気量の1.5倍を実現するなど、快適な温熱・空気質環境を創出している。	<b>Q2 サービス性能</b> 基準法の1.5倍の耐震性、設備の耐震クラスAなど災害に対する強靱性に配慮している。また高い積載荷重や、コンセント容量、天井高など、信頼性や可用性が高いオフィス環境を提供している。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 名古屋伏見の都市機能誘導地区計画に従い、都心にふさわしい顔となる景観を創出するため、歩行者空間の賑わいや壁面緑化等による自然景観の創出などに配慮を行った。
<b>LR1 エネルギー</b> BPI=0.78、BEI=0.65という高い省エネ性能を確保している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> リサイクル材を内装材に活用すると共に基礎床版に敷地内掘削土による流動化処理土を利用している。また、PRTR非該当建材の積極的な利用や、ノンフロン発泡断熱材、節水型器具の活用を行っている。	<b>LR3 敷地外環境</b> 敷地内で燃焼機器は使用しておらず、大気汚染物質を発生しない。屋外照明は上方光束比を低減するため、器具数の削減やスプレッドレンズの採用などの配慮を行った。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

### 重点項目スコア・結果シート

(仮称)名古屋伏見NNプロジェクト

■使用評価マニュアル:



CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>1. 温暖化対策</b>				<b>3.7</b>
LR1	エネルギー	4.2	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
<b>2. 自然共生</b>				<b>2.3</b>
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
<b>3. 循環型社会</b>				<b>3.7</b>
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.9	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

### 結果

<b>1. 温暖化対策</b>	評価点 = 3.7
	
<b>2. 自然共生</b>	評価点 = 2.3
	
<b>3. 循環型社会</b>	評価点 = 3.7
	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。